

ニュースレター

本号の目次

〔特集；第7回豪 NZ 親善交流の旅～オーストラリア〕

「『地球の歩き方』にも載っていない豪州の田舎町を旅して」

高木恵美子（1）

「私たちの旅食事大公開」 天野美保子（3）

お便り交換：「クイーンズランド州の新しい幼児教育など」

藤国際幼稚園園長 藤原一昭（4）

報告：平成20年（2008）総会決定事項など（6）

事務連絡及び編集後記（8）

本年も、外国からクリスマス・カードが届く頃になってきました。他方、いい年齢になってきたためか、年賀状に代わる訃報がめっきり増えてきました。友人たちからくる多くは、90歳前後の父母の訃報です。そしてそのすべてが、形式的に簡素にその事実だけを報せる葉書です。そういえば、年賀状もほとんどが葉書で定型的で簡素な挨拶です。これに対して、欧米系から送られてくるクリスマス・カードのほとんどが、カードというものの、封書に長い便りが詰まっているのが目に引きます。家族一人一人、ときには親戚を含めての去り行く年のかれらの動静が綴られています。これは、お互いの文化、歴史、生き方そして美意識の違いからくるのでしょうか。（宮本忠）

〔特集；第7回豪 NZ 親善交流の旅～オーストラリア〕

「『地球の歩き方』にも載っていない豪州の田舎町を旅して」

高木恵美子

縁あって、今回日豪親善交流の旅に参加させて頂きました。我家では、もも（ミチアグ ックスノド）がいるので長期の旅行は無理と思っていましたが、娘夫婦の助けもあって、参加できることになりました。又、参加するにあたり和食党の我家の問題はパンに慣れること。時々パン食にして慣れるよう努力しました。

9/11 15:45 大韓航空でセントレアを出発。途中仁川国際空港で乗換えて9/12の6:45 ブリスベン空港に無事到着。すぐレンタカーで藤国際幼稚園を訪問。明るい園内で話し上手な藤原一昭園長先生の説明をお聞きし、早速園内を見学しました。日本の幼稚園ではなく保育園に近い感じでした。又、日本の画一的な「みんなが一緒」の保育ではなく、小さい時からその子の特質を伸ばすということに重点をおいており、粘土で遊んでいる子、絵を描いている子、みんなそれぞれ好きなことに夢中で子供たちの目が生き生きと輝いているのが素晴らしく印象的でした。昼食もお弁当だったり給食だったり、又、保育時間は何時から何時という制約はなく登園の時間も自由、その家族の事情により毎日でなくてもいいということでした。本当に個人個人を大切にしており、オーストラリアの教育を垣間見ることが出来ました。

朝早く着いておなががペコペコ。昼食の藤原先生ご案内の飲茶がとっても美味しかった。この日は、ゴールドコースト近くの「マーメイドビーチホテル」に一泊決定。夜はゴールドコーストの海岸近くのレストランでお食事。海岸では、地元の人が出している日本のお祭りの様な夜店を楽しみました。

翌9/13は、藤原先生の紹介でタンボリン公園の中にある「ROSLYN LODGE」という老人ホームを訪問。訪問予定の時間まで「MANSBRIDGE PARK」を散策し、公園で大きな大きなハンバーガーを食べました。又、すぐそばでは、桐もどき？の花が薄紫の小高い森となって咲き乱れていました。最近の日本は超高齢化にさしかかり老人ホームが沢山建つようになりました。オーストラリアは、日本の22倍の土地に1/130の人口密度という恵まれた環境の中でもやはり高齢化問題は避けて通れないことのようにです。まず一番最初に通されたのが「palliative care」という亡くなる前に家族と過ごす部屋でした。このホームには平均82歳・最高齢97歳、又、90台が10人・男性が1/4あとの女性が3/4が生活していました。どこも女性が強いようです。この施設も、個人の生活が尊重されていて、アニマルセラピーで犬を飼っている人もいるし、アルコールもOK。タバコは庭 戸外・食べたい食事の希望もOKでした。ここは、すごく清潔で明るく色もカラフルでとてもいいなと思いました。（以下、宮本忠；パリアティブ・ケアと

は、緩和医療のこと。ターミナル・ケア（末期医療）とは異なる意味をもつ。バリアティブ・ケアとは、終末期にある人々が疼痛、死への恐怖・孤独・絶望・怒り・あきらめを感じることなく、より良い生と死に向き合えるようになされる医療。QOL(生活・人生の質)を最後までもちうるように提供される医療。家族へのケアを含む。この老人ホーム最初の部屋がバリアティブ・ケアであったことに驚いた。また、ここの住人も医療者も明るい笑顔と声で応答してくれたのもうれしかった。)

訪問後、海沿いを走り景色のよい小高い丘に登ったりしました。この日のお宿はパーベキュー設備のあるモーテル。モーテルの前の小さいお店で食材を購入、肉がなかったのでウインナとお野菜だけのパーベキューでしたが男の料理みたいでおいしかった。

9/14.快晴の中、海岸沿いを走りエメラルドグリーンの海を左に見て灯台のあるパイロン・ベイの雄大な景色を満喫。車とほとんどすれ違うことのない快適な道だけドユカリと草原の余り変化の無い景色の中をひた走ります。丘が牧場になっていて牛がほとんどでした。たまに羊がのんびりとお昼寝したり草をたべたりしています。2時間位走ると街が現れトイレ休憩です。どの街も大小の差がありますがシティホールと教会を中心にした田舎町、似た様な街並みです。同じような景色が延々と続き変化のない単調な旅が続きます。時々、コアラマークが出てきてその時だけはユカリの木立の中をコアラ探します。この日はグレンイネスで泊まる。モーテルが決まるや否や雷と雨（この旅行中の雨はこの時だけ）が降りだしその中、増田さんと美保子さんが中華のテイクアウトを買ってきてくれました。チャーハンと八宝菜、他にはから揚げあったかしら？

9/15 タベの雨が上がり、今日はオーストラリア大分水嶺山脈を北上、途中ワイナリーに寄り試飲させてもらいお土産のワインをGET。こういう時は天野さんのご主人が運転手で安心してあれもこれも飲み比べ、何とオーナーの子供が日本人と結婚しているとのことと互いに親近感がわき話が弾みました。夜は、トゥーンパでお宿を探し、ステーキが美味しい街とかでモーテルをゲットしてから街の中を走ってレストランを探しますがいいと思ったところは予約が一杯。やっと入れたレストランもすぐはやっていました。結婚式の2次会で盛り上がっていたり、家族連れ、カップルで店内はとても賑やか。でも注文したステーキは今一ウエイトレスに思わず「これbeef? or mutton?」と聞いてしまいました。答えはbeefでした。日本のステーキの方が味がいいなあ・・・帰途暗い上にあちこちぐるぐる走ったので道に迷い、尋ね尋ねてやっとの思いでモーテルにたどり着きました。途中で星がきれいだったのに一人自然現象で路端に車を止めることに・・・興ざめです。

9/16、同じような牧場の間を走り、クーロイ、ヌーサをとりやめブリスベンに戻る途中STANLEY RIVER(この川がブリスベンの街まで続く)を回りました。水がかなり干上がって牧草地になっていました。でも景色は上高地の大正池を彷彿させるように素敵でした。一路サンシャインコーストへ向います。ここのモーテルはすごく記憶に残っています。契約の行き違いで警察を呼ぶと脅されたり、トイレもシャワーもない部屋だったり、おまけに私が楽しみにしていた日本から持ってきたごはん味噌汁等食料2袋を朝出る時に置き忘れてきてしまったのです。がっくり！

9/17 はブリスベンのシティボタニックガーデンを楽しんで大きなマングローブの木の前でパチリ。モーニングティーを楽しみ、マイナスイオンをたっぷりもらい、昼はブリスベンの街をウインドーショッピング。夜は、街を一望できるマウント・クーサーヘッドドライブ。ブリスベンの夜景がとてもきれいでした。

9/18 はオーストラリアで過ごす最後のゆっくり出来る日です。明日は、朝6時にはホテルを出て空港へ行かねばなりません。オーストラリアといえばコアラとカンガルー。これを見なければ土産話ができません。増田さんがそれを察してローン・パイン・コアラ保護区へ連れて行ってくれました。すでに訪ねたことのある宮本御夫妻と増田さんは車で待っていてくれて、天野御夫妻と高木夫婦でコアラを真近で見ただっこもしました。昼間でコアラは眠いのか大人しくて可愛かった。抱いているところを写真にとってもらい満足、大満足。カンガルーの子供がおなかから顔をだしているのをパチリ。そこから皆で昨夜行ったマウント・クーサーからの昼の景色をもう一度見学。夜景とは又違った昼間のブリスベンの街を堪能しました。その日の夕食は今まで一番のディナーでした。メチャ流行っているレストランで、それぞれ好きなものをオーダーしたのですが、皆嬉しそうに納得しました。常連らしき紳士が一人で、ワインとラージ&ピックスステーキを食べていて気づいた時はもう帰っていました。何とスマートで格好いいなあと思いました。居酒屋で焼酎を片手に焼き鳥では絵になりません。この夜はモーテルの三階からサザンクロスを見ることも出来て、幸せ。もう明日はオーストラリアを離れます。あっという間の走行2000キロの8日間でした。こんなに長い旅行は初めてでした。オーストラリアは広く、広過ぎる。日本の狭いチマチマした所と比べると時間がゆったりと流れてうらやましいと思いました。今度行ってもまた違うオーストラリアに会えると思う旅でした。感謝！

「私たちの旅食事大公開」天野美保子

平成19年(2007)9月

11日(火) 中部国際空港15時45分発-17時45分仁川国際空港(韓国)着(乗り換え)仁川国際空港20時05分発-

12日(水) -06時45分ブリスベン国際空港着。入国時に3個のカバンの中の検査とビーグル犬の麻薬検査を受ける 30ヶ国の子供達を保育している藤園国際幼稚園(ゴールド・コースト近く)を訪問 ゴールドコースト観光 - 黄金の砂浜、カピル・モール等。昼食は、松阪市出身の藤園長さんの案内でヤムチャ・ランチを楽しむ。

13日(木) ゴールドコースト - ツウイドコースト

マーマイドビーチ(モテル付近)を散策。昼食は、分厚いバーガーを大満足でほうばる

・Roslyn Lodge (Tamborine Mountain) 高齢者施設を訪問

・ゴールドコースト観光 - 黄金の砂浜、

・カバリタビーチ(Cabarita Beach) - 釣り好きにうれしい岩場あり

14日(金) ツウイドコースト=パイロンベイ=グラフトン=グレン・イネス

ノーザン川岸にて恒例の野外昼食タイム(パン、ハム、チーズ、果物など)。対向車も少なく快調な走りが工事中でストップさせられた後次にまた35分のストップ、ただ待つのみ。そのうち降りて前に歩き出す男の子がではじめる。対向車84台が通り過ぎた後ようやく通過OK。大きなトレーラーが土手から転落していた。

グラフトンを過ぎたのち峠ではブッシュファイアーの跡がみられ、ユーカリの木々が黒こげで、まだ白煙があちこちあがっているのが見受けられた。

・グラフトン (Grafton NSW) - 藤色のキリモドキ(ジャカラング)並木の街

・グレンイネス (Glen Innes NSW) - 鉱山の町、ワッシュプールの国立公園

15日(土) グレン・イネス=ウォーリック=トゥーンバ (オーストラリア大分水嶺山脈(Great Dividing Range)を北上する) (予定変更で途中から西に向かう)

・グレン アプリン (Glen Aplin) - ハリントン グレン ワイン (Harrington Glen Wines) でワイン・テスティング。経営者の自慢の孫は日本人2世。日本留学で日本の男性ゲットの娘さん。彼女はゴールドコースト在住なのに電話をかけて私たちと話をさせてくれた。

・ウォーリック(Warwick) - ロデオと赤いバラの街

・ガーデン・シティのトゥーンバ (Toowoomba) - ステーキが自慢で良いレストランの街

今夜の宿トゥーンバは久しぶりの大きな町、郊外から中心に向かう道に並んだモテル通りの宿はどこも満室。宿を求めて先へ。郊外でようやく見つかる。街の見学がてら夕食のレストラン探しに中心部へもどるが、おいしいようなステーキレストランは予約でいっぱい。今から1時間だけならOKとのこと、とても7人がオーダーして食べ終えることのできる時間ではないのであきらめる。人々の姿はあまり見受けられず、どこで食事をしているのかと不思議に思うくらい。何度も何度も街をまわりレストランを探す。やっとのことで夜7時に予約ができ夕食にありつく。そこしかないのか、それともカジュアルなファミリーレストランなのか人々であふれかえていた。ビーフを注文したはずなのにラムのような感じだったので、後でウエイトレスにたずねたらビーフとのこと。帰り道で、あの方向感覚抜群の名運転手でうまいもの見つけの天才の増田さんが迷運転手になり、またまた通りをぐるぐるまわり。迷いの産物で目的地の郊外とちがう小高いところでトイレ我慢限度の殿方、急停車を命ずる。そのとき眺めた街の灯りと天上のまばゆいくらいの星星、車中の人のみ大感激大歓声。先の殿方は、ご存知なかったとか。また中心部へもどり(何度同じ通りを走ったことか)モテルの名刺を頼りに夜道で何度もたずねてやっとたどり着く。(反省 大都市?の夜道での記憶頼りはわがグループでは無理でした。)

16日(日)トゥーンバ = クロウズネスト(Crows Nest) = モーレ(Moore) = キルコイ(Kilcoy) = ピーチェスター(Peachester) = ビーワ(Beewah) = カロンドラ(Caloundra)(サンシャインコースト) (オーストラリア大分水嶺山脈(Great Dividing Range)を北上する予定を変更し途中から西に向かう)

モーレで昼食後 New England Highway (幹線道路) 沿いの露天でみかん、イチゴ、マッシュルーム、たまごを買う。キルコイから幹線道路をそれて、林道に入る。上高地のような湿地帯、池、湖にそりたつ朽ち果てた木、木、木そして点在する農家、牧場、山なみ、

お気に入りの写真ができました。コアラマークの注意標識をしりめに突っ走り、突然の「あ、コアラだ」の叫びでコアラ探しに熱中。何度もゆっくりベース走行で行ったり来たり。残念な結果でした。当協会 Motto のお値打ち宿に決めて（後に大変がっかりすることになるとは露知らず）近くのスーパーへ買出し隊が勇んでご出陣。海辺だしさぞかし魚介類も豊富に違いないと。食欲をそそるような食材もあたらず、ありきたりな食材を使うことになった。ところが、名シェフによるみごとな変身で大皿いっぱいのお惣菜はなによりのご馳走で、アツという間になくなり、なべのおこげまで一粒残らずたいらげた。ごちそうさまでした。ナベで 1 Kg のお米をたくことと玉ねぎ・ハム・卵での一品は増田シェフ、キャベツ・ハム・人参・エビでの一品は高木シェフ、あとはさっとボイルしたマッシュルーム（こちらの人は生食です）、インスタントのみそ汁、デザートはいちご。

17日(月) サンシャインコースト = ブリスベン

・カロンドラ = 青い青い海がどこまでも。機会があったら今度は1日中浜辺で過ごそう

スキャボローにてティータイム、ペーカリーにてパンを買い海岸線にそって海辺で遊びながら愛でながら進む。ベンチでお昼タイム。

チーズがないと悲鳴。すべて積み込んだはずの袋が1つないことに気付く。最後にと大切に残しておいた日本食品がない。昨夜の宿でいつたん決めた部屋をベッドの配置で部屋割りができないと、とりかえてもらったときに支払い代金の再確認がうやむやになり、誤解が生じたのだ。お互いに自分たち良いように解釈して支払い時にもめたので、メンバーの役割が一時中断、積み込みもうやむやに。駐車場に置いてきてしまったのだ。残念でした。以前に経験したことですが、私たちの交流旅行では、めずらしく早めに宿に入り、全員の持込日本食を1つの箱に集め、台所に置き、観光にかけた。これは旅の最初の頃の出来事。夕方帰ってきたら箱ごと処分されてしまいがっかりしたことがあり、その教訓はわすれなかったけれど。まだ未使用のものと捨てるものの区別はつくはずなのにとぼやいたけれど後の祭りでした。問い合わせをオーナーにしたら、何も触っていないと担当の女の子は言っていると返事がかえってきた。

海岸線を通りブリスベンエアポートまで帰国時の道路マップ作りをして街にもどりモーター探し。便利な空港からシティセンター間の幹線道路沿いは満室。郊外郊外へと探し回りようやく Woolloowin でゲット。どうしてこんなに満室なのかわからないと、オーナーが不思議がる。こちらが尋ねている間にも予約の電話が入ってくる。これで探しなと案内パンフレットをくれたが、道路わきにあったホテルの案内看板を見つけそこを訪ねる。そこでは、さっき決まっただけだといわれがっかりしたが、必死でどこか紹介してと頼むと電話をかけてくれて探してもらえた。口で行き方を教えられないからと地図をコピーして線でしめしてくれたが、何本目の何通りを右へ、今度は左へととても複雑でした。着いた所は大きなアパート兼モーターで荷物運びに階段が大変でしたが眺めもよく家族部屋もあり全員が1つ部屋で過ごせるはずでした。というのは通路からのドアのなかに、さらに二部屋に分かれる二つのドアがあり5人と2人分のベッドがあったのです。ところが、最上階の角部屋のダブルベッドの部屋は先客があり、隣のダブルの部屋があてがわれたのです。外出時に、迷った挙句通路側のドアもロックしてしまいフロントにロックのことを伝えに行くと、丁度カップルがクレームに来ていてフロントの女の子が鍵を笑いながら渡していたが、そのカップルににらまれたのです。夜はマウントクーサまで夜景見物に出かける組とベランダからの見物組にわかれる。

18日(火) クイーンズランド州ブリスベン

・市内観光 - シティーホール、ボタニックガーデン、ウィッカムテラス、マウントクーサ等

ボタニックガーデンでカプチーノを飲みながら計画を練る。まずはコアラというわけでローンパインへ。コアラのパーバ志願者組(抱っこ)と車中でお昼ね組(お疲れ)に分かれる。マウントクーサにもう一度寄りブリスベンにお別れする。最後の晚餐はシティセンターへ行く度に捜し求めていたところである。大当たりでお惣菜夕食会以来二度目の大満足、中、小満足は何回もあったかな。

19日(水) ブリスベン 8:25 - 17:40 仁川(韓国) 18:50 - 20:40 セントレア

無事帰国、みなさんお疲れ様でした。

{ 豪 NZ からの便り }

「クイーンズランド州の新しい幼児教育など」

「第7回親善交流の旅」は、藤国際幼稚園の経営者でもある藤原一昭園長さんに変にお世話になりました。先生によれば「こちらに幼稚園を開きましたのは、日豪間に、教育を通して文化の橋を架けたいとお願いしたからです」。先生は、松阪市のご出身で、かような大志をいだかれて現地でご活躍中です。帰国後、先生と交わした email の一部を以下に掲げます。（宮本忠）

宮本から藤原先生へ；

「...、ご多用の中、当協会主催、第七回三重オーストラリア・ニュージーランド親善交流事業にご協力いただきありがとうございました。おかげさまで、充実した旅行になりました。ご紹介いただきました老人ホームでは、ルイズヨネザワ様の大変わかりやすい日本語のご案内によって多くのことを学ぶことができました。...、

園児やホーム入居者のみなさんが、明るく生き生きしていることに強い印象を受けました。感激しました。

藤原先生がかの地で幼稚園を開園されたときは、まだ、ブッシュがひろがっていたとのこと、これまでのご尽力、大なるものがあったと想像いたしました。敬服です。...、昼食のときの中華料理飲茶も協会メンバーが満足したもののひとつでした。幾重ものお心遣いありがとうございます。

ところで、お尋ねがあります。今年からでしょうか、オーストラリア（クインズランド州？）では、幼稚園教育が小学校内でおこなわれる、ということをお聞きしたと思います。その際、藤国際幼稚園のような私立幼稚園はどのような立場、形、関係になるのでしょうか？お教えくだされば幸いです。...、私事で恐縮ですが、自らと社会の探求『目の旅路』（作品社）が完成しましたので昨年4月から教職に復帰し、学部と大学院を担当しています。ここ山形県庄内地方は、出羽三山、最上川そして日本海と温泉にめぐりあうところ。山の幸、海の幸の豊かなところです。...、

皆様がお健やかであること、そして藤国際幼稚園のますますのご発展を祈念いたしております。...、

藤原一昭先生から宮本へ；

...、時の経つ速さは、年々加速して行くように思われます。

一月二十九日から新学期が始まりました。ベビークラスの増築工事は、認可が遅れ、まだ完成していません。新学期にオープンしたかったのですが後一ヶ月ほどかかりそうです。

ご指摘のように、各小学校に就学前クラスが創られましたので、クインズランド州の学校教育は、幼・小学校8年、中・高校5年の体制になりました。十二月末日で4歳7ヶ月になった子どもたちは、新学期から小学校のプレップクラスに進学します。従いまして藤幼稚園でお預かりできるお子様は、4歳6ヶ月までとなる分けです。そこで、小さい子供たちの保育に重点を移し、ベビークラスを創ることになりました。

一応、ベビークラスから一貫した保育・教育体制が出来ますので、何とか生き残れるのではないかと考えています。

昨年末、略十二年に渡り政権を担当したジョン・ハワード氏に代わって、労働党のケビン・ラッド氏が首相に就任しました。幼児教育に関しては、より密度の濃い支援が得られるのではないかと期待しています。

先生がお住まいの山形は、是非一度訪ねてみたいと思っています。学生時代、立命俳句会の創設に参加、細々ながら今日まで俳句に関わってきています。現在は、京都の『きりん』と言う同人誌に拠っています。

“ 五月雨をあつめて早し最上川 ”

“ 閑さや岩にしみ入る蝉の声 ”

“ 涼しさやほの三日月の羽黒山 ”

“ 雲の峰幾つ崩て月の山 ”

“ 語られぬ湯殿にぬらす袂かな ”

芭蕉が奥の細道で詠んだ句が浮かびます。立石寺や出羽三山を尋ねる日を持ちたいものです。今しばらくは、こちらに居ますので、お役に立てることがあればお申し越し下さい。

海外での生活が長くなってきた所為か、日本の古典文学や仏教にひかれるようになりました。新年からこちら、空海と真言密教に関する書を何冊か読みました。般若心経や観音経を誦する日もあります。

先生のご著書『目の旅路』は、もう出版されているのでしょうか。拝見したいと思います。お暇なとき、そちらのことをお知らせいただけると幸いです。

奥様にもよろしくお伝えください。又お便りいたします。

敬具 藤原一昭

〔報告：平成21年総会決定事項〕

日時 平成20年(2008)3月30日 日曜 14時

場所 三重県人権センター(津市)

開会の辞 井ノ口すけひろ副会長

議長 堀、真由子

協議事項

第一号議案 2007年度決算および2008年度予算

2008年度収支予算(自2008年4月1日~至2009年3月31日)

収入の部			単立 円
項目	細目	金額	備考
前年度繰越金		413,580	2007年度繰越金
会費	個人・法人・家族	190,000	個人(16)・家族(14) 法人(8)
諸収入		420	預金利息・雑収入
	合計	604,000	

<支出の部			単立 円
項目	細目	金額	備考
報奨費	講師謝礼	40,000	各種事業の講師謝礼
役員行動費		20,000	役員活動費用(5000x4)
旅費		40,000	講師旅費を含む行事参加費
宿泊費		0	行事参加に伴う宿泊代
需用費		30,000	消耗品費・印刷製本費 食料費(講師茶菓子代)
役務費	通信運搬費	40,000	郵送料等(切手・はがき等)
備品購入費		10,000	協会事務用備品購入
負担金	事業参加負担金	0	
使用料		20,000	会場借上料(総会、各種事業)
事業助成金			
予備費		404,000	
	合計	604,000	

2007年度会計報告(自2007年4月1日~至2008年3月31日)

収入合計 645,071円 支出合計 231,491円

収入の部

項目	細目	金額	備考
会費	個人・家族・法人会費	117,500	個人 22,500円(9) 家族 65,000円(13) 法人 30,000円(3)
諸収入	雑入	750	預金利息 750円
前年度繰越金		526,821	2006年度繰越金
	合計	645,071	

〔支出の部〕

項目	細目	金額	備考
報奨費	講師謝礼等	10,000	3/30 総会講師謝礼 10,000円
役員行動費		20,000	4人(会長他)
需用費		94,979	食料費(総会・例会) 13,364円 プリンタインク代 79,915円 印刷費 1,700円
役務費	通信運搬費	30,647	通信運搬費 2,257円 郵送代 14,390円 コリンズ通信費 14,000円
備品購入費		0	
負担金	事業参加負担金		
使用料	会場借上料	15,980	8/25 総会(2007年度) 3,980円 3/30 総会(2008) 12,000円
事業助成金			
予備費		0	
旅費		46,000	姉妹都市友好協会シンポジウム参加
寄付金		10,000	WFPへ寄付
雑費		3,885	親善旅行おみやげ
	合計	231,491	

差引残額 645,071円 - 231,491円 = 413,580円

413,580円を次年度に繰り越す。

第二号議案 第8回豪NZ親善交流の旅～ニュージーランド南島

第三号議案 メルボルン高齢者ケア施設へのグループ研修の後援

第四号議案 日豪協会中部連絡会議三重大会開催

第五号議案 その他

公開講演会(無料)(津市)

日豪協会全国会議(高山市)

NZ協会中部連絡会議（静岡県）

会報の発行（梶）

eメールの配信

ホーム・ページの管理・運営例会の開催（宮本忠）

報告事項

総会の開催 8月25日

講演会 「高齢者介護こぼれ話」西村昭徳さん

老人ホーム訪問・ホーム夏祭り参加

第7回豪NZ親善訪問旅行～オーストラリア 9月11日～9月19日

姉妹都市・友好協会シンポジウム出席（NZ大使館） 宮本忠・由紀子 2月15日

会報発行 第16号 7月1日 第17号 3月

Eメール配信

ホーム・ページの管理・運営

総会終了後、公開講演会（無料）を開催した。

演題；「人生には旬がある～思うことは実現する～」

講演者 秋山 治孝さん

（株）三宝総合美容研究所代表取締役・農業組合法人 波動三宝農畜産組合理事長・

三重県教育委員会生涯学習講師

事務連絡

1 会費の納入について

会費未納の方は納入をおねがいします。

百五銀行津市役所出張所 ミエゴウエヌゼットキョウカイ 82920

2 mail 配信について

豪NZ大使館などからのニュースなどの情報を会員に送信しています。経費の節約の点からも、ぜひ、当協会の email 通信にご協力ください。あなた様の email アドレスをお知らせいただければ幸いです。TEL / FAX 0235 - 26 - 9125 宮本まで。

編集後記 長期にわたってすばらしい会報の編集と印刷に尽力されてきた梶美保理事がお仕事の都合で一時この仕事ができなくなりました。残念至極です。後任が決まるまで、宮本が代行いたします。というものの「早く第18号を発行しなければ」と案じつつ、ままならず、今日になってしまいました。寄稿者のみなさん方からは早くに原稿をいただいていたのに。しかも、添付ファイルと A4 のコピー用紙という形で発行としました。大変見苦しいと思いますが、ご勘弁ください。どなたか、会報の編集と印刷をお手伝いいただけないでしょうか。（宮本忠）

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会

発行責任者 宮本忠 TEL / FAX 0235 - 26 - 9125

997 - 0035 鶴岡市馬場町14-1 東北公益文科大学大学院

Eメール miyamoto@koeki-u.ac.jp

無断転用を禁じます